



「鹿児島大学附属図書館の将来構想」の策定について……	1
学術情報の中核機関である図書館の機能強化に向けて……	2
MyLibraryサービスの紹介……	4
サービス改善の取り組み……	6
平成20年度鹿児島大学附属図書館貴重書公開……	7
貴重書公開記念講演要旨	
くらしの中の伊勢物語……	7
島津家の女性達……	8
近衛家から見た島津氏……	9
『源氏物語』と姫君教育……	10
企画展示……	12
学生モニターを募集します……	12

「鹿児島大学附属図書館の将来構想」の策定について

附属図書館は本年4月開催の平成21年度第1回附属図書館運営委員会において、「将来構想」を策定しました。

この将来構想は平成18年9月に策定された「附属図書館の理念と使命」と、新たに定めた「第2期中期目標・計画における附属図書館の基本目標」から構成されており、今後の図書館活動の指針となるものです。

「附属図書館の理念と使命」については、附属図書館ホームページの「広報／コレクション」内の「図書館の理念」(<http://reo.lib.kagoshima-u.ac.jp/~nanpu/rinen.html>)で既に公表しておりますので、当該ページをご覧ください。

ここでは、第2期中期目標・計画における附属図書館の基本目標の核となる部分を挙げておきます。

学習支援機能の強化と学術情報の発信・流通を促進する

■附属図書館の基本理念・使命および鹿児島大学の中期目標・計画に沿って、閲覧中心型図書館から学習支援型図書館へ脱皮する。授業との連携を強め、専門家の目を通して収集・整理された良質な学術情報をベースに、他者とのコミュニケーションやディベートを媒介としたグループ学習を促進させ、知識の活用能力の向上に寄与する。また本学における学術情報の発信・流通を促進するとともに、地域における生涯学習、キャリアアップ学習を支援する体制を整える。

基本目標1：学習支援機能の強化と学習環境の向上により教育における学術情報の有効活用を促進する。

基本目標2：本学で生み出された学術情報を積極的に発信するとともに鹿児島県における学術流通促進の拠点として整備する。

基本目標3：業務内容・業務体制の見直しにより、利用者の利便性と快適性の向上を図り、効率的かつ透明性の高い運営に努める。

将来構想作成にいたった経緯、利用者サービスの上で重要な「基本目標1」及び基本目標2の具体的内容について、本将来構想をまとめた井上附属図書館長から紹介がありますので、次ページ以降ご覧ください。

学術情報の中核機関である図書館の機能強化に向けて —グループ学習室とアメニティスペースの設置—

附属図書館長 井上 佳朗

■第2期中期目標・計画における附属図書館の将来構想

将来構想を作成するに当たっては、①文部科学省『教育振興基本計画（案）』（平成20年6月）に記されている「教育の質を保証する」「国際化を推進する」、②国立大学協会『国立大学の目指すべき方向』（平成20年3月）に記されている「高等教育の品質保証」（学生の資質の向上）、③外国人留学生30万人計画、④現代GP『戦略的大学連携支援事業』「かごしまは一つのキャンパス」などとの整合性を図りつつ、⑤鹿児島大学の教育の質を高めることに寄与することを意図した。また昨今の学生の図書館利用動向（グループ学習志向）などを考慮に入れている。

将来構想作成に当たってのメインテーマは『学習支援機能の強化と学術情報の発信・流通を促進する』することにある。これは、「優れた学生」を社会に送り出すこと、また地域に対して知識基盤社会を支える機能を提供することが、大学に対する重要な評価軸であり、社会から支持される条件と考えるからである。特に、「閲覧中心型図書館から学習支援・課題解決支援型図書館へ脱皮する」ことを、緊急かつ重要な柱に据えている。

■教育の質向上と図書館機能の活用

大学は、知識と経験によって学生の成長を促す教育の場であり、既存の知識から新しい知識や価値あるいは技術などを生み出す研究の場でもある。また知識とその応用によって社会に貢献する公的機関でもある。

この教育・研究・社会貢献においてキーとなるのは、『いかに知識を活用するか』ということであり、『知識を賢く使いこなす』能力とそれが可能な環境を準備することが教育や研究の質を左右すると考える。

『知識を賢く使いこなす能力』は、知識基盤社会において社会の中核を担う人々にたいして求められる基本的スキルであり、このスキルを鍛えるには、図書館に収蔵された良質で体系的な図書情報や電子ジャーナル等を、教育と研究において、積極的に使いこなしていく環境と仕組みを整えていくことが、重要である。

大学の附属図書館は、まさにこのような環境と仕組みを提供するための学内共同利用施設であり、その実

現に向かって具体的な目標を定め、努力をしなければならない。

■学習効果を高めるためのグループ学習室とアメニティ空間

知識とは「記憶（記録）された知恵と見識」のことであり、ピアジェの発達論によれば、「知識は伝達されるのではなく能動的に構成され」、また「知識は社会的に構成される」という¹。すなわち知識の獲得のためには、学習者のモチベーションを高め維持すること、他者との相互作用（コミュニケーションなど）によって課題を理解していく状況を作り出すことが重要と言える。ここにグループ学習の意義がある。

附属図書館では現在、少人数のグループ学習室（5人前後の利用を想定）の設置を構想している。グループ学習は空いている講義室やゼミ室でも可能ではあるが、附属図書館は身近に広範囲にわたる良質な学術資料を揃えており、またネットワーク環境、プレゼン用機器をいつでも活用できる環境にある点で、講義室やゼミ室と異なる。調べたいときにすぐ必要な資料に容易にアクセスできることは、効率的で効果的な学習を促進することになる。さらに、図書館員によるレファレンス支援が受けられと言う点も、学習の効率を高めるうえで大きなメリットとなる。

学生の多様な利用形態を想定するならば、附属図書館も含めて全学の講義室や演習室が相互補完的に学生のグループ学習に利用されることが望ましい²。

図書館を使ったグループ学習は、個人学習を超えるすぐれた効果を獲得することにあるが、以下のような効果が期待できる。

- ①新たな視点を発見し多角的に検討を加える態度が身につく。
- ②議論を重ねた知識は記憶に残りやすく理解も深まる。
- ③良質な文献を活用し、信頼性に基づく説得力のあるレポートを作成する能力を高めることができる。
- ④他の利用者の存在は学習に対するモチベーションを高め維持する。

また、副次的には以下のような効果も期待でき、これらは、中教審答申で指摘された学士力を構成する要素でもある。

- ⑤コミュニケーション能力、レポート能力を向上できる。
- ⑥交渉力や対人交渉能力を向上できる。

また、アメニティ空間の整備は、集中学習による緊張を緩和し、気分転換や友人との会話によって、発想の転換や拡散的思考などの柔軟な思考を促すことに寄与するとともに、長時間の図書館利用を可能にするものと認識している。

1 Piaget, J., *The Origins of Intelligence in the Child*, 1952(波多野完治・滝沢武久訳『知能の心理学』1960)などを参照。

2 本学の中央図書館は、平日は朝8時30分から夜の9時30分まで、土日は朝10時から午後6時まで利用可能である。

■授業との連携、教員との協働が必要不可欠

以上述べてきたような学習支援・課題解決支援機能の強化に向けた図書館の環境整備は、授業との連携、教員との協働によって初めて機能すると考えている。

附属図書館では、これまでもレファレンスサービスやシラバス掲載参考図書整備、共通教育授業「情報活用基礎」における図書館利用の講義など、学生の学習を支援する方策をとってきたが、効果的な学習支援の実現には、授業との一層の連携はかせない。事前事後学習の効果を高めるためにも、先生たちには授業の中で、学生に対して、図書館の利用を促す工夫を、是非していただきたいと思っている。また教育センターとも協力して、初年次学生に対して、大学における学習理解を深めるために、図書資料の有効活用を図る教育プログラムを開発していく必要があるだろう。

知性は良質な知識に接することと議論によって鍛えられる。授業における疑問や与えられた課題の解決のプロセスにおいて、図書館にストックされた良質な知識をベースに、ディスカッションを行うことが、学生の知性を鍛える堅実かつ効果的な方法であると考えている。グループ学習室やアメニティ空間は、知性を鍛える場として有効活用されることを願っている。

■学術情報の流通拠点整備

附属図書館の将来構想におけるもう一つの重要な柱は、生涯学習への対応である。21世紀が知識基盤社会になると言うことは、解釈の多様性を持ちながらも、多くの識者の共通した認識であると言っている。

あろう。地球環境問題、地域社会の活性化、高齢化問題、食糧問題、新型インフルエンザ対策等々、その課題解決には衆知を集め連携・協働することの必要性が叫ばれている。また、個人のレベルにおいても、精神的豊かさの追求と充実した生活の実現のために、知性を鍛え知識を活用する場面が数多く存在している。

このような社会動向の中で生涯学習の機会を広く学外に対して提供することは、知の拠点である大学の重要な責務であり、附属図書館としても、この責務の一端を積極的に担うつもりである。めまぐるしく変化し多様化する人々の要求に、一図書館が全て応えていくことは困難であるが、他大学の附属図書館や県、市の公共図書館との連携を深め、地域社会に対し良質な知識情報を提供していくことが求められている。本学附属図書館は、蔵書数、ネットワーク環境、職員数、立地条件などからして、鹿児島県における学術情報の流通拠点としての心構えを持って、地域社会に貢献していく努力が必要である。

■終わりに

全国的に、図書館内にグループ学習室やラーニングコモンズといったマルチパーパスな利用ができるスペース(本学ではアメニティ空間と呼んでいる)を用意することによって、学生の教育効果を高めている事例(お茶の水女子大、横浜国立大学他。アメリカの大学図書館ではもはや常識になっている。)が増えているし、今後も多くの大学図書館で同様の企画がなされていると聞く(平成20年12月、全国国立大学図書館長懇談会)。また各地で、このような動きを加速させるようなシンポジウムが活発に開催されている。

他大学に比べ見劣りのしない学習環境を提供することは、授業料を払ってくれる学生に対する当然の責務であり、社会的に評価され受験生から選択されるための重要な要素であると考えている。

志の高い大学では、図書館を、単なる物理的情報基盤として捉えるのではなく、「知識基盤社会」における人材育成、研究支援の中核として、また生涯学習のための学術情報基盤として、図書館機能の多様化と強化に力を入れている。おそらく次期中期目標・計画期間中に、志の高い大学とそうでない大学の差が明確に出てくることであろう。

(いのうえ よしろう 法文学部教授)

本年3月、図書館システムを更新し、それに伴い、従来のオンラインサービス機能を強化した「MyLibrary」を導入しましたので、概略を説明します。

MyLibraryサービスの紹介

本年3月より蔵書検索サービス「OPAC」の機能を刷新し、あわせて「MyLibrary」のサービスを開始しました。

OPACでは、検索結果での表紙画像の表示、お求めの図書の配置場所の表示ができるようになりました。また、関連するデータベースと後で紹介する文献複写サービスとの連携機能が強化されました。一方、MyLibraryは従来より図書館ホームページで行っていた文献複写依頼等のサービスを元に新たに貸出ランキングの参照、レコメンドサービス、新着図書情報メール配信サービス等の新機能を付加した個人向けポータルサービスです。今回の記事では、My Libraryの主な機能を紹介します。



0066000313 図書館 翠子さん MY Libraryへようこそ

ユーザーメニュー
ログアウト
パスワード管理
テーマ選択

図書館からのお知らせ
05月29日【医中誌Web(V
05月11日6月11日より「進

あなたへのお知らせ
<メールアドレス>
本サービスで利用するメールアドレスはhana@lib.kagoshima-u.ac.jp

<延滞状況>
延滞資料はありません。

<取置状況>
取置資料はありません。

<貸出停止状況>
どくしありません。

<文献複写貸借依頼状況>
到着しているものはありません。

<その他の連絡事項>
どくしありません。

簡易検索画面
資料区分 : ●全資料 ○図書 ○雑誌 ○視覚的資料
刊行種別 : ●すべて ○和書 ○洋書
検索対象館 : ●すべて ○中央図書館 ○桜ヶ丘分館 ○水産学部分館
フリーワード :
表示順/表示件数 : 並び順を 昇順 で表示 10 件/ページ

刷新されたOPACの検索画面

MyLibraryTOP画面。ここからたくさんの情報・サービスを利用することが出来ます。

電美学：その地甲と彼方 / 「電美学」刊行委

検索画面に表紙画像。図書の請求記号表示もラベル風。

巻名	冊名	請求記号	注記	請求ID
中央図書館 漢土資料	電美学	LL10546267		
中央図書館 漢土資料	電美学	LL10547190		
中央図書館 漢土資料	電美学	LL10546000		

OPACは大きく進化。よりビジュアルになりました。

4F(資料配置図及び施設案内)

本の配置場所のマップを表示

利用できる人

- ・My Libraryは、鹿児島大学の学生証・教職員証をお持ちの方で、本学に在籍中の方が利用できます。
- ・初めて利用される方は、図書館のカウンターで利用申請しパスワードの発行を受けてください。

利用方法

- ・インターネットに接続されたパソコンがあれば、学内のパソコンはもちろん、自宅のパソコンからでも利用することができます。
- ・なお、初めて利用される方は、図書館のカウンターで利用申請し、パスワードの発行を受けてください。
- ・図書館ホームページ内の各ページ～TOPページ、OPAC(蔵書検索)等～に、「My Library」のリンクがありますので、これをクリックしてアクセスしてください。

ログイン方法

- ・ログイン(ユーザ認証)画面で、「ID=学生証番号又は教職員番号」とパスワードを入力して“ログイン”ボタンを押してください。

鹿児島大学 附属図書館
Kagoshima University Library

My Library ユーザ認証画面

IDとパスワードを入力してログインボタンを押してください。

Enter your ID and Password.

ID : ← 学生証番号、又は教職員番号

パスワード : ← パスワードは、図書館カウンターで利用申請し、発行を受けてください。

ログイン クリア

図書館ホームページの“My Library”からアクセスできます。

画面の紹介

0066000313 図書館 華子さん、My Libraryへようこそ!

ユーザメニュー
ログアウト
パスワード管理
テーマ選択

ここにメニューが並んでいます。

文献複写・貸借依頼
依頼する
予約・貸出状況確認
確認する
メニュー
貸出履歴一覧
貸出ランキング
新着情報メール配信サービス登録
読書プラン
ブックレビュー
貸出お役めの本
ASK
FAQ

利用者情報変更
利用者情報変更

図書館からのお知らせ

05月29日【医中誌Web(Ver.4) Journal@rchiveへのリンクのお知らせ】
05月11日5月11日より他川區・楠田洋明二人展を開催しています【中央図書館】

あなたへのお知らせ

メールアドレス
本サービスで利用するメールアドレスは「hana@lib.kagoshima-u.ac.jp」です。

<延滞状況>
延滞資料はありません。

<取置状況>
取置資料はありません。

<貸出停止状況>
とくにありません。

<文献複写貸借依頼状況>
到着しているものはありません。

<その他の連絡事項>
とくにありません。

このエリアに、あなたへのお知らせが表示されています。貸出情報には特に気をつけてください

MyLibraryにログインすると、この画面が開きます。

この画面で現在取り寄せ依頼中の図書・文献や本の貸出状況等の図書館からのお知らせを一覧できます。

下図：文献DB(Web of Science)で検索した文献情報を、MyLibraryのILL依頼画面に挿入する画面の流れ

The screenshot shows search results for 'SWINE FLU OUTBREAK Flu'. A red circle highlights the 'Full Text Available' icon. A red arrow points from this icon to the 'ILL Request' button in the MyLibrary interface below.

文献複写・貸借依頼

従来からあるサービスですが、MyLibraryでは、文献データベースで検索した書誌情報データを、文献複写依頼画面に取り込む等の機能が追加されています。

論文書誌情報

論文タイトル SWINE FLU OUTBREAK Flu
Tricks of Novel H1N1
著者名 Cohen, J
雑誌名 Science (New York, N.Y.)
ISSN: 0036-8075 発行日 2009
巻 324 号 5870

電子ジャーナルへのリンク

収録地帯 01/01/1997 - present

More full-text options

冊子体の所蔵を調べる
大学図書館の所蔵を確認する [OPAC検索](#)
文献複写を申し込む [ILL Request](#)
申込はこちら

依頼方法: ● 文献複写 ● 図書館貸借
支払区分: ● 公費 ● 私費
予算: → 選択してください
複写種別: ● 電子複写 ● マイクロフィルム ● マイクロフィルム
依頼の範囲: ● 国内まで ● 海外まで(公費のみ)
送付方法: ● 普通郵便 ● 速達 ● その他
図書/雑誌: ● 雑誌 ● 図書

書名: Science (New York, NY)
特定の版を希望する場合は明記してください。(例)新版、改訂増補版。
ISBN/ISSN: 00368075 ISSN9876 ISBN10876(または13876)ハイフンなしで入力してください。
出版社: 上記の項目のみ、いずれかをを入力して検索してください。
巻号: 324 5000 (801巻2号 → 1(2))
ページ: 870-871
年次: 2009

貸出延長・予約・取り寄せ

現在貸出中の本、貸出予約をしている本の照会の他、MyLibraryでは、本の貸出期間の延長申請ができるようになりました。

また、従来は他キャンパスの所蔵本についてはILL依頼が必要でしたが、MyLibraryでは、取り寄せボタン発で利用申請ができるようになりました。

その他 (レコメンド、SDIサービス)

新着情報メール配信サービス登録

キーワードを該当する検索条件項目に入力し「入力内容確認」ボタンをクリックし(設定ポイント！条件を1項目に設定するとヒット確立が高くなります。また、あなたが購入を望んだ図書を設定すると早く確認できます。)

資料区分: ● 全資料 ● 図書 ● 雑誌 ● 視聴覚資料
和洋区分: ● すべて ● 和書のみ ● 洋書のみ
フリーワード:
タイトル:
著者名: 村上春樹
出版者:
ISBN/ISSN:
出版年(FROM): 指定なし 雑誌は出版年では検索出来ません
出版年(TO): 指定なし
E-mailアドレス: hana@lib.kagoshima-u.ac.jp
自動実行頻度: 月1回
週1回の場合 選択して下さい
月1回の場合 01日に実行

レコメンド、とはお勤の本を紹介するサービスで、貸出履歴一覧画面の [この本がおすすめ](#) ボタンを押すと表示されます。

OPACの検索だけでは探しきれなかったけれども、読んでみたくなるような本に出会えるかもしれません。

SDIサービスは新着情報を自動的に通知するサービスです。MyLibraryにキーワードを登録しておく、そのキーワードに合った資料が図書館に入った時に、メールで通知を受け取ることができます。

書名 / 著者名	請求記号	この本がおすすめした人は、こんな本も借りています
12 妖怪 / 谷川健一編	382.1/N71/8	この本がおすすめした人は、こんな本も借りています
10 100万人の経済学 / ロバート・ハイムブローナー著; 浜田清夫訳	331.2/H51	この本がおすすめした人は、こんな本も借りています
06 妖怪 / 谷川健一編	382.1/N71/8	この本がおすすめした人は、こんな本も借りています
03 民間信仰・妖怪・風俗・生活編 / 津沢衛彦著	380.8/Z8/3	この本がおすすめした人は、こんな本も借りています
5 2008/07/06 日本ファンズムの興亡 / 万峰著	210.1/H55/10	この本がおすすめした人は、こんな本も借りています

サービス改善の取り組み（平成20年度～）

1 開館時間の延長

中央図書館では、授業期の開館時間を平成20年4月から平日の閉館時刻を午後8時から午後9時30分に、土日の閉館時刻を午後5時から午後6時とすることにより、開館時間を延長しています。

2 サイドスクリーン（仕切り：取り外し可）の設置

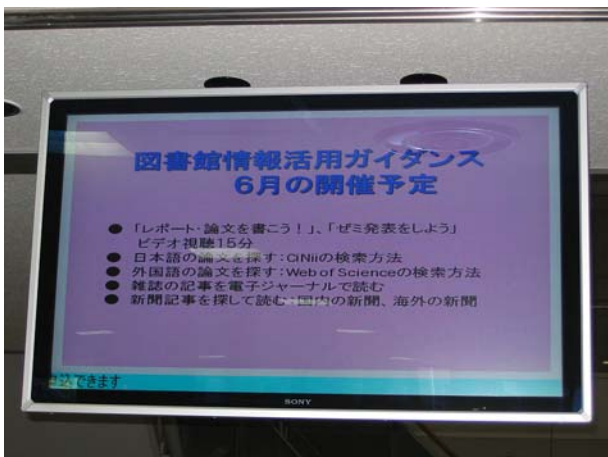
平成21年3月から中央図書館では片側3人用閲覧機の中央部に、桜ヶ丘分館及び水産学部分館では4人用閲覧機の中央部に設置することにより、個人学習に集中できる環境を整えました。



3 電子掲示板システムの導入

平成21年4月から中央図書館では、電子掲示板で図書館からのお知らせ、図書館の利用の仕方、学内情報などを表示できるようにしました。

これから内容を充実させていきますので、来館の際はご覧ください。



4 グループ学習室の整備

水産学部分館の視聴覚室をグループで学習できるスペースに整備しました。



5 アメニティコーナーの設置

桜ヶ丘分館には1階に自動販売機を置いたコーナーを設置し、勉学の合間にくつろげるスペースを設けました。



6 オンラインサービスの改善

文献複写依頼、貸出予約等のオンラインサービスを「MyLibrary」サービスに更新しました。概略については、p.4-5で紹介しております。

7 国際化への対応

情報リテラシー支援ページの英文化を行い、英語版ホームページの充実を図りました。

<http://www.lib.kagoshima-u.ac.jp/~enghp/modules/pico2/>

平成20年度鹿児島大学附属図書館貴重書公開

1 テーマ

「薩摩の女性文化-姫君たちの雅・暮らし-」

2 鹿児島大学会場

(於：鹿児島大学附属図書館)

① 展示会 11月11日(火)～16日(日)

② 記念講演 11月16日(日)

「くらしの中の伊勢物語」

下原美保(教育学部准教授)

「島津家の女性達」

丹羽謙治(法文学部准教授(現教授))

③ 参加状況

展示会：430名、記念講演：35名

3 垂水市会場

(於：垂水市市民館)

① 展示会 11月28日(金)～30日(日)

② 記念講演 11月30日(日)

「近衛家からみた島津氏」

金井静香(法文学部准教授)

「『源氏物語』と姫君教育・文化」

中島あや子(法文学部教授)

③ 参加状況

展示会：162名、講演会：37名



平成20年度鹿児島大学附属図書館貴重書公開記念講演要旨

くらしの中の伊勢物語

教育学部准教授 下原 美保

はじめに

平成20年度鹿児島大学附属図書館貴重書公開「薩摩の女性文化 姫君たちの雅・暮らし」展では、薩摩における上流社会の女性文化に焦点を当てた。この講演会では、輿入れ道具として持参されることの多かった『伊勢物語』に着目し、くらしの中でどのように享受されてきたのかを紹介した。

『伊勢物語』は平安時代の歌物語で作者は不詳である。和歌を中心とした約125段の小話が集積されたもので、概ね「昔、男ありけり」のような書き出しで始まる。各章段を貫く主人公は歌人在原業平らしき男性で、男女の恋愛が中心となっている。厳密にいうと一貫した筋はなく、物語の素材ともいべきエピソードが集められたものであるが、歌人に必須の教養として重視され、注釈も作られるようになった。

鹿児島大学附属図書館蔵「伊勢物語」

「薩摩の女性文化 姫君たちの雅・暮らし」展では、本館所蔵の「伊勢物語」(玉里文庫 天の部54-568)を展示した。本作品は『伊勢物語』で有名な段、二人の幼なじみがお互いの気持ちを確認めあった「筒井筒」や、主人公が東下りの途中、三河の八つ橋で和歌「から衣きつつなれにしつましあればはるばるきぬる

旅をしそ思ふ」を詠んだ「東下り」などが所収されている。物語の内容を絵画化した挿絵は、その素朴な作風から、町絵師が手がけたと推測される。

『伊勢物語』の享受—中世から近世へ—

中世において、『古今和歌集』、『伊勢物語』、『源氏物語』などは歌人の教養とされ、師から弟子への伝授によって、語句や本文の解釈が伝えられてきた。しかし、近世に入ると、印刷物の刊行により、古典物語や和歌が一般に普及することになる。

例えば、本阿弥光悦、角倉素庵が刊行に関与したといわれる嵯峨本は、慶長13年(1608)から15年にかけて数種刊行され、その中には『伊勢物語』も含まれていた。嵯峨本は挿絵も伴っていたため、江戸時代の絵画・工芸に用いられる図様にも多大な影響を与えている。

また、『伊勢物語』の享受者のために、「伊勢物語聞書」(慶長14年・1609)などの注釈書も、江戸時代初期を中心に数多く刊行された。

くらしの中の伊勢物語—絵画—

『伊勢物語』は『源氏物語』と同様、古くから絵画化されてきた。特に江戸時代は数多くの伊勢物語絵が制作され、輿入れ道具に供されることもあった。代表

平成20年度鹿兒島大学附属図書館貴重書公開記念講演要旨

的な作品の一つが、住吉如慶（1599-1670）筆・愛宕通福（1634-1699）詞「伊勢物語絵巻」（東京国立博物館蔵）である。本作品は、津軽家に伝来したもので、『寛政重修諸家譜』津軽家五代藩主信寿の項に、「延宝四年十月二十一日うち高蔵院の御遺物住吉法橋如慶の面に、左中将通福詞書の伊勢物語、ならびに匂箱をたまひ」とあることより、徳川家綱の正室高蔵院（1640-1676）の遺品であったことがわかる。本作品は、全125段の詞書と63段77場面を描いたもので、詞書は金銀箔を多用した美しい料紙に記され、絵画も良質な顔料を用いた丁寧な筆致で描かれている。このことより、特別な目的、恐らくは高蔵院の輿入れ道具として制作されたと考えられる。

この他にも、伊勢物語を題材とした絵画作品は江戸時代を通じて数多く手がけられている。例えば、有名な尾形光琳筆「燕子花図屏風」（根津美術館）は、伊勢物語の「八つ橋」を題材にしているが、橋もなく、極端にデザイン化されている。しかしながら、単なる燕子花の絵ではなく、制作当初より『伊勢物語』の一場面として認識されていた。それほど、『伊勢物語』は広く享受され、暮らしの中に浸透していたと言える。

4 暮らしの中の伊勢物語－工芸－

江戸時代における大名家の婚礼は、藩と藩との緊密な関係をつくる重要な意味をもっていたため、幕府の管理のもとで行われた。婚礼は、藩を挙げての一大行事だったと言える。そのため、姫君が嫁ぎ先へ持っていく鏡台や櫛・文房具・遊具や筆筥といった身の回り

の調度品や衣装など、贅をつくした膨大な数の輿入れ道具が特別に作られ、伊勢物語もしばしばその題材となった。その理由として、以下の2点が推測される。

1点目は、伊勢物語は王朝文化を象徴する物語であったという点にある。江戸時代初期に、幕府は公家諸法度などの制度により、公家社会を配下においた。しかし、王朝文化に対する憧れは非常に強いものがあり、将軍家でも和歌や古典の講義が行われた。伊勢物語は古典の教養を象徴するもの－それだけの教養を身につけさせ、輿入れさせるということの意味していた－と推測される。

2点目は、嫁ぐ女性にとって、ためになるエピソードが『伊勢物語』に数多く含まれていたという点にある。例えば、「筒井筒」では、男性が浮気したと感じても、無理に問い詰めると、かえって気持ちが逃げていくので、わざとそ知らぬふりをする、という夫婦の危機の乗り越え方が記されている。

『伊勢物語』を題材とした工芸品の一例に、白河藩主阿部家伝来「八橋蒔絵文台・硯箱」を挙げることができる。これらは、白河藩18代正功のもとに、徳大寺家から嫁いだ照姫の輿入れ道具である。伊勢物語の第9段「八橋」を題材にした意匠で、黒漆塗りに八橋・たかまきえ きりかね むらなしじかきつばた・流水が、高蒔絵・切金・叢梨子地などの技法が駆使して作られ、公家の輿入れ道具にふさわしい風格をもっている。

（しもはら みほ）

島津家の女性達

法文学部教授 丹羽 謙治

本講演では「島津家の女性たち」と題して、江戸時代後期における島津家の女性たちの生活や教養の実態について考えてみようと思う。一口に「島津家」といっても本家の島津家の女性たちは多く江戸藩邸に住まい、江戸という都市の中での生活を送っている。今回は江戸で暮らした女性たちではなく、鹿兒島の地で育ち、生活した島津家の女性たちを取り上げることにした。具体的には島津家一門の越前島津家、垂水島津家の女性たちを中心にみていくことにする。

垂水島津家では18世紀の後半から19世紀にかけて、当主やその弟末川定救（周山）を中心とした和歌のブームが起こる。文化9年（1812）に成立した『浪の

下草』（1150首を収録）巻末の「作者姓名」によると、垂水島津家の女性として「島津貴品養母（四首）」「島津貴明室（二首）」、家臣の女性として「伊集院兼貞妻（三十六首）」「末川久救妻（二十二首）」「安山親博妻（二首）」「伊集院兼貞母（一首）」「安山親安養母（二首）」「伊集院兼貞女（一首）」などの名が見える。量的には男性歌人たちに及ばないものの、女性たちの作歌活動が活発に行われていることが窺える。このほかに「市木村浦人女（一首）」として庶民の名もなき女性の歌が取られていることも注目される。時代はくだって、天保6年（1835）の伊集院兼愷編『浪の藻屑』（2000首収録）の「作者姓名」

平成20年度鹿児島大学附属図書館貴重書公開記念講演要旨

では、「慈誠君（恵能子君）二首」「涼相君（綺佐子君）十首」「公夫人（絮子君）七首」「伊集院八兵衛兼愷母 五十二首」など当主の夫人や家老の母などのほかに町人の歌も収録されており、引き続き垂水での和歌を好む機運の高まりを感じさせる。

今回の展示で垂水市教育委員会蔵の『源氏巻の名尽』という往来物を紹介したが、これは垂水の武士の家に伝わった女性用の教科書（手本）と考えられるものである。源氏物語の巻名を読み込んだ七五調の文章で、源氏物語の内容と手紙の作法を同時に習得できるように工夫されている。こうした手本からも垂水の文化水準の高さが窺うことが可能であろう。

さて、先の『浪の藻屑』に入集している島津家の女性だが、「慈誠君」は日置島津家から嫁いだ女性、「涼相君（綺佐子）」「公夫人（絮子）」はともに越前島津家から来た女性で、「涼相君」は第12代当主貴柄の正室、「公夫人」は13代貴典の正室である。

きさこ
綺佐子は文化6年（1809）18才で結婚した。彼女の母は垂水島津家出身の女性（10代貴澄の女）であり、綺佐子は母の実家に嫁いだわけである。文化7、9、10、14年に出産、14年の出産直後26才の若さで没している。一方、いとこ絮子は文政11年（1828）16歳で祖母の実家である垂水家に嫁ぎ、天保元年を皮切りに弘化3年（1846）までの16年間に8人の子を出産、うち3人は夭折している。彼女たちは結婚をした後は《産む性》としての役を担わされているかのようである。

越前島津家の女性で、島津忠教（のちの久光）の妻

となった千百子はどうだろうか。彼女の父は島津忠公（9代薩摩藩主齊宣の子で越前家へ養子に入った）、母は今和泉島津家からとついで来た於貞。彼女もまた、天保7年（1836）に16歳で結婚してから、およそ10年で8人の子を出産。弘化4年（1847）27才の若さで没している。

越前島津家の女性をもう一人。時代は前後するが、島津忠教の娘で今和泉島津家に嫁いだ^{たか}於珎。少女時代の彼女については『越前島津家奥祐筆日記』で窺い知ることが可能である。『奥日記』には勝浦山でのお茶取り（夏）や栗拾い（秋）、六月灯の行事や寺参りなど日常の姿が描かれる。薩摩藩の能書家として知られていた中原林左衛門の手本をもとに書の練習を重ねていたこともこの日記から明らかとなった。於珎は、篤姫（天璋院）の祖母に当たり、於珎の少女時代の生活は篤姫のそれと重なる部分が多くあると思われる。

最後に明治・大正・昭和と激動の時代を生きた島津^{たすこ}公爵家の夫人、島津田鶴子を取り上げた。田鶴子は公家の竹内家の出身で、玉里島津家の二代忠済と結婚した。島津家の歴史に興味を持っていた彼女は、島津家に関わる古記録を筆写しつづけた（近年『故郷のしをり』と題して刊行された）。また、最近、明治末年から敗戦後まで連綿と書き継がれた日記がみつかった。華族の女性の目に近代の事件（関東大震災など）がどのように映ったか、その一部を紹介した。

（にわ けんじ）

近衛家から見た島津氏

法文学部准教授 金井 静香

大河ドラマ「篤姫」放映により、幕末の島津氏と近衛家との間に交流があったこと、そしてその交流の端緒は中世初頭にさかのぼることが、一般にも知られるようになった。今回の貴重書公開の講演会においては、この中世～近世における島津氏と近衛家の関係の変遷について講演したが、ドラマとは逆に、視点は近衛家の側に固定し、論が展開するなかで島津氏にも触れるというかたちをとった。

当該期における近衛家と島津氏の関わりは、同時代における近衛家と武家政権の関係をふまえて理解する必要がある。且つ、近衛家と島津氏との間に見られる接触は、政治的な交渉から文化的交流まで、様々な

性質のものがある。今回は、貴重書公開のテーマにも鑑み、近衛家が幕府や織豊政権、島津氏との関係を深めるうえで、近衛家の姫君たちが果たしていた役割に注目した。

近衛家出身で征夷大將軍の妻となった女性は、鎌倉時代にすでに存在する。近衛兼経（近衛家4代）の娘宰子であり、彼女は鎌倉幕府6人目の將軍（皇族將軍の初例）である宗尊親王と結婚した。宰子は婚姻にあたり、北条時頼（鎌倉幕府5代執権）の猶子となっている。

次の室町幕府において將軍が近衛家から正妻を迎

平成20年度鹿兒島大学附属図書館貴重書公開記念講演要旨

えたのは、戦国期の足利義晴（室町幕府12代将軍）が初めてであり、相手は近衛尚通（近衛家14代）の娘の慶寿院である。彼女が産んだ足利義輝は父の譲りをうけて13代将軍となり、その義輝の正室も近衛家から迎えられた。将軍の外戚となった近衛家は、将軍権威の回復に努める義輝の側近として、島津氏を含む諸国の戦国大名（戦国期守護ともいう）と将軍との間を仲介する役割を果たし、慶寿院自身も息子の政治に介入した。しかし、永禄8年（1565）、松永久秀らが義輝を急襲、殺害し、慶寿院も火中に身を投じて自殺した。

織田信長と良好な関係を築いた近衛前久（近衛家16代）は、信長の依頼で自ら九州に下向し、島津氏と他氏との和睦斡旋を行っている。信長が本能寺の変で斃れたのち、天下統一を進める羽柴（豊臣）秀吉は、関白となるために自らが前久の猶子となることを望み、前久はそれを受け入れた。しかし、関白就任後の秀吉は、近衛信尹（前久の息子）にやがて関白職を譲るという約束を事実上反故にし、さらに信尹の不行跡などを理由に彼を薩摩に流罪とした。この配流の途中、信尹が立ち寄り10日間ほど滞在した「カイカタ」（海淵）の地は、今回の貴重書公開・講演会の開催地となった垂水市内にある。

また秀吉は、近衛前久の娘前子（中和門院）を自らの養女として後陽成天皇のもとに入内させている。前子が産んだ皇子の1人が、徳川和子（江戸幕府2代将軍徳川秀忠の娘）を正妻（中宮）とした後水尾天皇である。また信尹が近衛家を継承させた養子信尋も、前子所生の皇子であった。信尋の日記『本源自性院記』

には、かつて近衛家に仕える進藤某が、近衛家姫君と将軍の結婚を阻止するため、嫁娶の前日に不意打ちでその姫の髪を切ったとの言い伝えが記されている。

江戸時代において近衛家の姫が将軍御台所となった初例は、近衛基熙（近衛家20代）の娘の熙子（天英院）であり、その夫は徳川家宣（江戸幕府6代将軍）である。厳密に言えば、家宣がまだ甲府藩主の松平綱豊であった頃に熙子が嫁ぎ、その後綱豊が将軍徳川綱吉の継嗣になったのであった。注目されるのは、近衛家姫君が将軍の妻となった事例は前述のように中世から存在するにもかかわらず、近衛家の姫君が武家に嫁すことは「先祖御遺戒」にかなわないとして基熙がこの縁組に難色を示した点である。その数年後、島津綱貴（島津氏20代）の娘の亀姫が近衛家久（近衛家22代）に入輿する話が持ち上がったときも、基熙は「後水尾院御遺誠」を理由に渋っている（最終的には承諾する）。幕府と確執のあった後水尾天皇の弟を当主にむかえ、以降も王家（天皇家）と密接な関係を保ってきた近衛家は、意識の上においても大きく天皇の側に引き寄せられていたのである。

しかし、熙子や亀姫の婚儀があった頃から、武家との関係についての近衛家の意識もまた変化していったと考えられる。そしてそのことが、茂姫（広大院、島津重豪の娘、近衛経熙の養女、徳川家斉の御台所）や篤姫（天璋院、島津忠剛の娘、島津斉彬および近衛忠熙の養女、徳川家定の御台所）の結婚、つまり島津氏出身の女性が近衛家の姫君として将軍御台所となることにもつながったといえよう。

（かない しずか）

『源氏物語』と姫君教育・文化

法文学部教授 中島 あや子

平成20年（2008）は世に〈源氏物語千年紀〉と称されている。『源氏物語』が世に出て千年になるということであるが、これは必ずしもこの物語が完成して千年後であることを意味しない。『紫式部日記』の寛弘5年（1008）の記事にこの物語に関するものが4箇所ある。藤原公任が紫式部に「このわたりにわかむらさきやさぶらふ」と言ったこと、一条帝がこの物語の作者について、「この人は、日本紀をこそ読みたるべけれ。まことに才あるべし」と言ったのを耳にした、紫式部をよく思わない内裏の女房が「日本紀の御局」と悪意のあるあだ名をつけたこと、藤原道長がこの物

語に関わる戯れの歌を紫式部に詠みかけたこと、以上の3により、『源氏物語』の作者が紫式部であり、寛弘5年には「若紫巻」を含むこの物語の巻々が世に出ていることが確かめられる。それがどの巻まで成立していたかは、今1つの日記の記事が示唆を与えてくれる。中宮還啓の折の帝への土産でもあろうか、大規模な冊子作りが営まれ、専ら紫式部が従事していることから、それが『源氏物語』の清書であると考えられる。これは「桐壺巻」から「幻巻」まで41帖の光源氏を主人公とする「光源氏物語」とするものが有力説であ

平成20年度鹿児島大学附属図書館貴重書公開記念講演要旨

る。第1部の「桐壺巻」から「藤裏葉巻」までの33帖は主人公光源氏の誕生から栄華を極めるまでを、第2部の「若菜上巻」から「幻巻」までの8帖は主人公光源氏の人生の落日を描いている。第1部は大団円で終わる従来の物語の型によっているが、主人公の人生の落日を描く第2部は紫式部の創造であり、脱物語である。しかも第2部の兆しは第1部に看取できる。恐らく紫式部は「幻巻」をもって光源氏の生涯を語る物語を完結させるつもりであったものと考えられ、大規模な冊子作りは一旦完結したこの物語の清書ということになる。それでは続いて書かれたこの物語の真の完結は何時か。第3部は更なる脱物語であり、光源氏のような絶対的の主人公のいない揺ぎ悩む人々が相対的に描かれる世界である。さしもの紫式部にも困難を極める作業であったであろう。「匂宮・紅梅・竹河巻」は未だ構想の定まらない試行の巻々で、寛弘6年（1009）のうちに書かれていたものと考えられる。ところが、寛弘7年（1010）正月28日に、藤原道長の政敵で敗者の藤原伊周が死去し、その折の「家名を汚さぬよう、つつましくすごすよう」ということばを娘たちに遺したことが紫式部の知るところとなり、ここに「宇治十帖」の構想が成ったものと思われる。同じく政争の敗者宇治八宮が娘たちに遺したことが伊周のそれと酷似するのである。「宇治十帖」はこの年のうちに一気に書き上げられたものと考えられる。完全なく源氏物語千年紀>は更に2年後ということになるだろうか。

話は変わるが、『源氏物語』の「螢巻」に〈物語論〉が展開される。光源氏の玉鬘相手の戯れのことばの中に紫式部の物語に関わる主張が述べられている。

「日本紀などはただかたそばそかし。これらにこそ

道々しくくはしきことはあらめ」という光源氏のことばは、物語を正史以上に置き、歴史的事実ならぬ虚構の中にこそ人間の真実が描かれるものとして高く評価する。小説虚構論として今日にも通ずる優れた文学論である。紫式部はこうした気概をもって、『源氏物語』を書いたのである。

また、この〈物語論〉の付説として、当時の物語が良かれ悪しかれ子女教育に効果が大であることを述べる。明石の姫君のために光源氏が物語を「いみじく選りつつなむ、書きととのへさせ、絵などにも描かせたまひける」とある。物語本文と絵が対をなし、大人が本文を読み、姫君が絵を見ながらそれを聞くという享受のあり方を示している。格別に優れた物語である『源氏物語』が姫君教育に寄与し、姫君の教養・文化を担うものであったことは言うまでもない。

『源氏物語』は成立以来今日まで様々な形で絶えることなく享受されている。物語本文、絵巻等、和歌（源氏取り）、源氏香、能、舞楽、梗概書・教科書（往来物）、研究等である。玉里文庫には、郁姫の輿入れの調度である『（嫁入り本）源氏物語』全巻揃、零本であるが優れた写本類、『源氏物語』の巻名にちなんだ源氏香の図が載せられている『古今香式』、『源氏物語』の梗概書として、巻名を読みこんだ『源氏巻の名尽』等を所蔵している。

最後に、この物語が至宝であることを理解するには是非とも原文で読むことをおすすめする。巻々が短編の集まりであって、どこからでも読み進めることが可能であり、また、この作者の筆の運びは少々くどいと感じる程に委細を尽くしている。今日の視点で理解するのではなく原文のままに読解し、その上で今日を見返すなら、豊かなメッセージが得られるはずである。

（なかしま あやこ）

企画展示

中央図書館1階のアトリウムにて、様々な展示会を開催しています。

平成20年度

○写真展『波濤を越えて』

田中久雄氏(当時水産学部職員)写真提供

平成20年3月28日(金)～4月21日(月)

○学友会美術部美術展

平成20年4月2日(水)～4月16日(水)

○特別支援学校生徒作品展

平成20年7月22日(火)～8月8日(金)

○私の砂のコレクション

田中久雄氏ほか提供

平成20年10月1日(水)～15日(水)

○稲盛和夫氏著作展

平成20年9月1日(月)～10月31日(金)

○錦江湾の生きものたち—出羽慎一 写真展—

出羽慎一氏(水産学部卒業)写真提供

平成20年10月20日(月)～31日(金)

平成21年度

○学友会美術部新歓展示会

4月1日(水)～30日(木)

○学友会写真部写真展

4月13日(月)～30日(木)

○池川直・桶田洋明二人展

5月11日(月)～6月8日(月)

ギャラリー“アトリウム”のオープンを記念して、本学教育学部の教員である池川教授の彫刻作品と桶田准教授の絵画作品を展示しました。

初日は吉田学長、池川教授、桶田准教授を招き、オープニングセレモニーを開催しました。写真はセレモニー終了後の一コマです。



学生モニターを募集します

学生モニター制度を導入して、今年で3年目になります。これまで、学生モニター懇談会、アンケートをとおして、学生の皆さまと意見交換を行い、図書館サービスの改善に努めてきました。

図書館への意見や要望、図書館の活動に関心のある方は応募してください。

役割 懇談会参加、アンケート回答

応募資格 本学の学部生、大学院生

活動期間 来年3月まで

昨年度は、中央図書館、桜ヶ丘分館及び水産学部分館で延べ5回学生モニター懇談会を開催し、学生モニターの意見を聞き、運営に反映させました。

今年度の学生モニター懇談会開催予定

7月上旬以降年2、3回程度(各キャンパスの図書館にて開催)

学生モニターとして参加できる方は、各図書館のカウンターにお申し込みください。